

family tree のためのノート 1

コンクリートとはセメント、水、細骨材（砂など）、粗骨材（砂利）、混和材料から構成されます。セメントは石灰石、粘土、けい石、鉄滓などをキルンと呼ばれる窯で焼成し、石膏を添加し粉碎して製造される。

family tree のためのノート 2

日本に存在している石灰岩の多くは、今から3～2億年前頃に熱帯域でサンゴ、石灰藻、コケ虫など炭酸カルシウムの殻を持つ様々な生物が複合して生物礁として堆積し、海洋プレートに伴って移動して現在の日本列島付近の海溝へ沈み込み、大陸側のプレートに衝突・付加したものが元となっている。石灰岩は日本国内で需給できる唯一の鉱物で、最も生産量の多い地域は大分県で全体の19%を産出している。次いで山口県 11%、高知県 11%、福岡県 10% となっている。

family tree のためのノート 3

2019年6月、2017年九州北部豪雨で最も被害の大きかった朝倉市松末地区の災害現場で河川の復旧工事に従事することになった。奇しくもそこは2018年に福岡県立美術館の「ARS/NATURA- 風景の向こう-」展に出品した作品を制作した場所だった。その翌年に全くの予期せぬ偶然から再びこの場所を訪れることになった。

family tree のためのノート 4

復旧工事は大きく分けて三段階に分けられていた。私が働いているときは予定の二段階目の工事の只中で、大型のクレーンで7tにもなる巨大なブロックを何百個と並べる作業が川の一帯で行われていた。この場所は復旧工事をしている二年の間にも何度も大雨に見舞われた。その度に大きく変化する地形を重機で慣らしブロックを並べて、雨が降ればまたブロックを積み直すといった復旧のための復旧を幾度となく繰り返していた。災害と復旧、自然と人為との間に広がる深い暗がりに石を投げるようなやりとりがいつか身を結ぶことがあるのだろうかと疑問を抱かずにはいられなかった。

family tree のためのノート 5

家系図を保管していた寺が火事により全焼したことでそれまでの系譜を記した家系図を失うこととなった。以来我が家には家系図は存在しない。

family tree のためのノート 6

ある時祖母から家系図を作って欲しいと言われ私は家系についての作品を作ることにした。

family tree のためのノート 7

大正4年、高祖父である古賀辰蔵により現在の所在地である久留米市荒木町に事業が開かれた。当時は機械整備の時に使われるウエスを製造するための原料である衣服の古布繊維を取り扱う業種であった。収集や配送など運搬の利のある荒木駅前が事業を起こす最適な場所として選ばれた。

family tree のためのノート 8

日清戦争後の軍拡政策により1897（明治30）年、陸軍第12師団歩兵48連隊が久留米市に移駐し、またさらには1907(明治40)年日露戦争後の軍備拡張で第18師団が設置される。これを機に軍都として久留米は急激に発展することとなった。

family tree のためのノート 9

軍都となった久留米は一帯で兵営や各種軍施設の建設ラッシュとなった。同時に軍隊がスムーズに移動するため、司令部や市街地、各軍施設と鉄道とを結ぶ道路が新設された。建築に必要な資材や物資の納入は地元経済を大いに潤した。農地が中心だった近隣地域の景観は一変し、軍都化は急速に進んでいった。

☒family tree のためのノート 10

第一次大戦時遼東半島での日独戦争に独立部隊として久留米から第18師団が派遣された。青島要塞の攻略に成功の報告を受け久留米は市を挙げて喝采した。凱旋門を造り帰還する隊を歓迎するために多くの人が訪れた。

family tree のためのノート 11

荒木駅は兵隊、物資、戦車などの運搬のための重要な拠点となった。輸送力強化のためホームは拡張され、当時日本で3番目の大きさのホームを有する駅となっていた。駅前には各地から配備された兵隊を戦地に見送る家族などが多数訪れるため、その人々が宿泊するための旅館が建てられるなど大きな賑わいを見せていた。またそれら家族が各軍事施設を観光して回る「軍事ツーリズム」がブームとなり観光地としての側面も知られるようになる。

family tree のためのノート 12

1889(明治22)年、市制施行。同年12月九州鉄道会社により博多-久留米間で鉄道の運行が始まる。1910（明治43）年荒木駅開業。

family tree のためのノート 13

青島での戦闘で降伏したドイツ軍は捕虜として日本へ移送され日本各地に設置された俘虜収容所に収容された。久留米俘虜収容所には最大で1319名が収容され日本で最も多い数のドイツ人の捕虜が収容されていた。1919年12月より随時解放が始まり翌年1月には全ての捕虜が解放された。21名が本人または周囲の希望により日本に残ることになり、日本の作業の発展に貢献することとなった。

family tree のためのノート 14

1945(昭和20)年8月8日午前1130頃荒木駅上空に飛来した米軍機P-51ムスタング戦闘機2機により、列車および周辺の建物が機銃掃射を受ける。

family tree のためのノート 15

明治30年代の産業振興期に、日本における重工業の形成とともに工場資材として国内需要が発生した。日露戦争期の軍需物資としても目立った品目であった。明治末期から大正期にかけてウエス市場は次第に成長していった。

family tree のためのノート 16

戦後日本が近代化し産業の多くが工業へとシフトするにつれ、「ボロ選別業」と呼ばれる仕事は職業として不人気となり最盛期には100人を超す雇用を産んだ家業であったが次第に業者は減っていきついには人手不足となり会社の運営は困難となった。

family tree のためのノート 17

事業を立て直すため昭和47年祖父母の立案によりコンクリート二次製品の製造業が開かれることとなった。この年は九州縦貫高速道路の工事が始まった年であり、また翌1973(昭和48)年には田中角栄による「日本列島改造論」が打ち出され、その煽りを受けた家業の経営は順調であった。

family tree のためのノート 18

祖父母が事業を開業して数年経ったあるとき一人の従業員を雇うことになった。その青年は閉山した軍艦島から家族で久留米市内に移り住んで来たという人で、祖父母によれば仕事に熱心で精悍な青年だったそうだ。しかし彼の奥さんは熱心な宗教家で、2,3年後には彼自身も宗教活動に専念したいとのことで会社をやめてしまった。祖父母は彼をゆくゆくは工場長にと考えていたらしくとても残念に思ったそうだ。

family tree のためのノート 19

祖母が話してくれた思い出の中で、特に印象に残っているのが祖母の兄についての話である。13才離れた祖母の兄は当時中学生で乗馬クラブに所属していた。ある時練習中に落馬してしまい骨折する怪我を負ってしまった。しかし彼は翌日に控えていた東京への修学旅行に行けなくなるのを懸念し、怪我のことを誰にも内緒にしたままにしていた。しかし、気の毒なこと楽しみにしていた修学旅行中に傷がもとで高熱を発症してしまい途中で帰ることになってしまった。結局その熱が元となり程なく彼は亡くなってしまう。病気の療養中、学校に行けなかった彼は絵を書くことが好きだったためによく近くの河原へスケッチに出かけた。7人兄弟の末っ子ということもあり可愛がられた祖母はよく一緒に連れて行ってもらったそうだ。家での生活の中での彼との記憶はほとんどないが、スケッチに連れて行ってもらったことは今でも良く覚えていると言っていた。その兄と私がよく似ているとその話のたびに聞かされ、次第に早世の大伯父に興味を持つようになった。

family tree のためのノート 20

千人針：1000人の女性がさらし木綿に赤糸で一針ずつ結び目を作ったもの。兵士の腹巻きにすると弾避けになるとされ、出兵する兵士に送られた。

family tree のためのノート 21

日本における豚骨ラーメンの起源時は諸説あるが、現在では発祥を久留米とする説が有力となっている。戦後の食糧難の時、うっかり煮込みすぎたスープを勿体無く思い、捨てる事ができなかった店主が味付けをし飲んで見たところ大変美味であったというのが豚骨ラーメンの始まりである。こってりと濃い味付けや豚の骨から取ったスープは、当時充分な食べ物がない時に重要な栄養源となった。また、その元祖と言われる「南京千両」という名前は、屋台として開店した当初日本軍が南京を占領したことにちなんで付けられた。現在では「(横浜の)南京街生まれのラーメンは千両役者ほどの人気になって欲しいとの願いを込めて」との意味合いが付けられている。

family tree のためのノート 22

インフラの整備が確立していくにつれ1990年代半ばをピークに、全国的にセメント製品の生産量は減少していった。家業の事業も年々経営が悪化し2018年、大手土木関係会社のグループ傘下に入ることとなった。大正4年から業種を変えながらも同地に構えてきた工場は近く取り壊され、住宅地として造成されることとなっている。

family tree のためのノート 23

当時ウエスの主な納品先は国鉄であった。取引先の一つである満州鉄道への営業のため創業者である古賀辰蔵は満州を何度も訪れた。

family tree のためのノート 24

参考：久留米市史 第三巻・第十巻・第十一巻、続久留米市史 下巻、目で見ると久留米の歴史、久留米・筑後・八女の100年、カメラがとらえた100年 私の時代私の街、図説 久留米・小郡・うきはの歴史、日本の歴史と筑後、ドイツ軍兵士と久留米 - 久留米俘虜収容所Ⅲ-、ドイツ兵捕虜と家族 - 久留米俘虜収容所Ⅴ-、久留米ラーメン物語、経済産業省「ウエスの需要実態」、一般社団法人セメント協会ホームページ、石灰石工業ホームページ、新・筑紫湯の風ホームページ